

イラク復興支援閣僚級会合(於:クウェート)

佐藤外務副大臣スピーチ

2018年2月14日

まず、この会合をイラク全土のISILからの解放の直後という誠に時宜に適った形で実現されたクウェート、イラク、国連、世銀、EU の関係者のご尽力を称賛いたします。

2014年半ば以来、イラクは、多大な犠牲を払いながら、「テロとの闘い」を最前線で戦い抜き、そして勝利を収められました。今こそ、イラクは、2003年以来取り組んできた復興の道に立ち戻り、それを成就させる好機でありましょう。

我が国は、2003年以降、私自身も自衛隊の一隊長として、復興支援活動に加え、人道支援、インフラ復興などの広範な分野において、イラク自身による国づくりの努力を支援してまいりました。これまでの支援総額は、債務削減を加えれば、150億ドルを超えます。

まず、復興の最大の障害となっている難民・国内避難民への支援について、我が国は、2018年においても、国際機関を經由して約1億ド

ル規模の人道・安定化支援を行ってまいります。

また、我が国は、現在実施中の案件を含め、電力、水、石油セクター等における円借款を通じたインフラ復興のための支援を継続してまいります。加えて、一昨年のG7伊勢志摩サミットで発表した財政支援5億ドルを達成すべく、今後も着実に円借款を実施し、イラク経済の安定化を後押ししていく考えです。

さらに、民間資金の呼び込みも重要です。我が国としても、昨年から実施に移されたJBICファイナンス・スキームの活用による質の高いインフラ導入などを通じて、イラクの復興を後押ししてまいります。

こうした官民を挙げてのイラク復興への参画を大きな成果へと結びつけていくためには、それを支える土台が不可欠です。まず、治安の安定が成し遂げられねばなりません。我が国は、イラク社会に蔓延する武器の回収が重要であると考えています。この観点から、我が国としては、職業訓練や雇用機会の拡充を通じて武器回収を進める仕組み作りにおいてイラク政府に協力する所存であり、東京で国際会議を開催する予定です。

また、イラク国民が宗派・民族を問わず一体となって取り組む確固たる意思が極めて重要です。ISIL掃討におけるイラク国民の団結は、イラク国民が一体となって取り組めば、どのような困難も乗り越えられることを証明しました。こうした団結の下で、イラク政府が経済改革と汚職撲滅を達成されることは、今後の復興の鍵を握る外国からの民間投資の呼び込みに不可欠です。

復興を成し遂げた国として、イラクが国際社会における平和のメッセージの発信地となることを強く期待します。

御清聴ありがとうございました。